

## 館山支部の闘いから学ぶこと

### ◎絶対反対を貫く闘いをしよう！

#### ～東北大学有朋寮の闘いから～

館山支部の闘いと東北大学有朋寮の闘いは一致が多い。有朋寮に対する廃寮攻撃の目的も、全学連、東北大学学生運動の拠点つぶしがねらいであった。そのような団結破壊攻撃の中で最後まで絶対反対を貫き、団結はますます広がっていった。また地域の人とともに闘った。

館山支部と有朋寮闘争の一致点

|      | 館山支部                                | 有朋寮                                |
|------|-------------------------------------|------------------------------------|
| 敵の攻撃 | 館山運転区の廃止                            | 一方的の廃寮攻撃                           |
| 敵の目的 | 動労千葉の拠点つぶしであり、組合員をバラバラにすること。        | 全学連、東北大学学生運動の拠点をつぶしをすること。          |
| 闘い   | 最後まで絶対反対を貫き、異動先も全員第1希望1本書きを通した。     | 最後まで廃寮攻撃、絶対反対を貫き通した。               |
| 地域共闘 | 地方切り捨て攻撃の中で、館山周辺の自治体や観光協会などとともに闘った。 | 50年、地域のコミュニティとして存在し、地域の人たちとともに闘った。 |

### ◎大学当局とは非和解である！

館山支部の闘いは、絶対反対を貫いた闘いでした。絶対反対を貫く闘いとは、資本と絶対折り合いをつけないということです。折り合いをつけないということは、資本は話し合う対象ではないということです。資本は話し合う対象ではなく、打倒対象である。だから、館山支部は話し合っとうにかしようという闘争方針ではなかつた。区長は抗議する対象である。国労などの他組合は当局が来たら、おべっかを使う。嵐が過ぎるのを待とう、おとなしくしていれば、生き残れるのではないかと考える。館山支部は当局と徹底、非和解で闘ったから勝利した。おとなしくしたら、絶対負ける。館山支部が廃止された同じ日に国労の拠点職場である津田沼車掌区も廃止されたが、国労は何もせず、組合員に残ったのは負け犬根性だけだった。

資本主義はもう末期の末期、帝国主義段階です。1ミリたりとも折り合いがつけられないのです。1ミリでも折り合いをつけて妥協したらそれは、待ったなしに差別と戦争を受け入れる道です。ここに確信を持って、これまでの資本主義との折り合い、資本と折り合いをつける労働運動を私たちは革命する労働運動にただちに変わっていかなければなりません。

(3.18 イラク反戦集会での医療労働者の発言より)



大学当局と折り合いをつけ、話し合いをする、妥結するという方針に切り替えたとき、自分自身が今の腐った大学支配の延命を支える側にまわることであり、学生は大学の奴隷の鎖につなが止められたままになる。